



公益財団法人 日本ライオンズ  
〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目2-4 八重洲ノリオビル5階  
TEL.03-6262-6108

第2回全国特別支援学校フットサル大会 記念誌



公益財団法人日本ライオンズ主催  
**第2回全国特別支援学校  
フットサル大会**



# Contents

1	公益財団法人日本ライオンズ 役員
2	全国特別支援フットサル大会の基本コンセプト
3	あいさつ・祝辞
7	開催要項
8	運営組織
9	全国大会熱戦譜 プロローグ 成績 青葉、奈良、日野中央、名古屋、松江、さくらの、福岡 富山、中部農林、みなみの杜、小松島、香川東部
36	開会式・閉会式
40	大会講評
41	地区大会記録
51	次回大会お知らせ
53	第2回全国特別支援学校フットサル大会を終えて

---

## 公益財団法人日本ライオンズ 役員

理 事	不老 安 正 (理事長)	評 議 員	中 村 泰 久
	小野寺 眞 悟 (副理事長)		櫻 井 貴 裕
	石 原 英 司		松 岡 勲
	川 島 正 行	監 事	大 石 清 美
	橋 本 勝 策	顧 問	山 田 實 紘 (名誉顧問)
	城 阪 勝 喜	事務局長	伊 賀 保 夫
	識 名 安 信		
	伊 賀 保 夫		

# RESPECT

## 公益財団法人日本ライオンズの大会基本コンセプト 自立とRESPECT

### 〇自立への願い

公益財団法人日本ライオンズは、特別支援学校の多くの生徒が、卒業後、実社会に出て就労することを踏まえて、生徒が自ら判断し、自立的行動が可能になるように、生徒の主体的判断を尊重する大会を目指しています。

このため本大会は、通常のフットサル競技会では許されている監督・コーチのベンチでの指示・命令を禁止しています。監督・コーチは、選手交代時以外はベンチに座り、状況を見守り、生徒の自立的行動を正確に把握して、穏やかな態度で、生徒が主体的な判断・決定・実行する力を高めるよう、温かな思いやりのある行動を期待しています。

### 〇RESPECTへの願い

生徒は、卒業後、実社会に出た場合、RESPECT「他人への思いやり」があれば、大抵のことは円滑に進めることができます。この大会を通して、自校や他校の生徒同士、学校の先生、大会関係者、特にゲームでは審判へのRESPECT行動を具体的に示す大会を目指しています。

このため会場では、自校の生徒同士、引率の先生、対戦相手校の生徒と先生、審判、大会関係者などにはRESPECTを表す「こんにちは」や「お願いします」「ありがとうございます」などの具体的な礼儀や言葉遣いを行うことを期待しています。

区分	開催地	日程	会場
第1回	札幌	2022年11月4日 開会式 11月5日 競技会、表彰式、閉会式	北ガスアリーナ
第2回	福岡	2023年11月3日 開会式 11月4日 競技会、表彰式、閉会式	アクション福岡
第3回	名古屋	2024年11月1日 開会式 11月2日 競技会、表彰式、閉会式	中村スポーツセンター
第4回	東京	2025年10月31日 開会式 11月1日 競技会、表彰式、閉会式	東洋大学赤羽台キャンパス 体育館予定
第5回	大阪	2026令和8年11月6日 開会式 11月7日 競技会、表彰式、閉会式	堺市立大浜体育館 予定
第6回	岡山	2027令和9年11月5日 開会式 11月6日 競技会、表彰式、閉会式	環太平洋大学体育館 予定
第7回	金沢	2028令和10年11月3日 開会式 11月4日 競技会、表彰式、閉会式	未定
第8回	仙台	2026令和11年11月2日 開会式 11月3日 競技会、表彰式、閉会式	未定

ごあいさつ



公益財団法人日本ライオンズ  
理事長 不老 安正

この度、「第2回全国特別支援学校フットサル大会」が関係各位のご協力のもと、このように盛大に開催できましたことに、主催者の一人として、心より感謝申し上げます。

昨年度、第1回大会が札幌市で開催され、今年度第2回大会を福岡にて開催する運びとなりました。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックもやっと落ち着き、昨年度より多い111校の予選リーグが開催され、全国10ブロックの代表校と特別枠の2校を含め、12校にて全国優勝を目指し大会が行われました。

この大会は、弱視、聴覚障がい、知的障がい、軽度の肢体不自由、発達障がい等の障がいの種類、程度等に分けることなく、特別支援学校に学ぶ生徒の全国的なスポーツ大会として歴史的な大会です。

当法人は、日本国内における青少年の健全育成事業として、特別支援学校の生徒が参加する全国特別支援学校フットサル大会の開催に加えて、児童養護施設の小学校に学習指導をするための学習支援員を派遣する寺小屋事業等も行っています。

私たちはこの大会を通して、全国の障がいを持つ生徒に、心身の健康、人とのつながりを育て、これからの日々の生活をより豊かなものにするために、さらに努力してまいります。

今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、ここに「第2回全国特別支援学校フットサル大会」の記念誌をスポーツ庁及び全国特別支援学校長会をはじめとした関係各位のご尽力により発刊することができましたことを深くお礼申し上げます。

本記念誌は各地区大会をはじめとして、福岡市で開催された全国決勝大会の模様を整理、編纂したものです。お目通しの上、特別支援学校の生徒へのご理解につながれば幸いです。

## 祝 辞



スポーツ庁長官  
室伏 広治

この度、第2回全国特別支援学校フットサル大会が、福岡県福岡市において、盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

本大会は、全国10ブロック111校による予選リーグが開催され、全国大会では、予選を勝ち抜いた学校に特別枠等を含めた12校による熱戦が繰り広げられました。本大会を通して、広く全国の特別支援学校生徒が集まり、ともにスポーツを行い、つながりを感じる貴重な機会となったことを大変嬉しく思います。改めまして、本大会の開催に御尽力いただいた公益財団法人日本ライオンズの皆様に、心より敬意を表します。

特別支援学校における子供たちのスポーツ環境の充実を図っていくことは極めて重要であり、本大会は、日頃の練習の成果を発表する機会として、大変意義深い取組であると思います。

現在、スポーツ庁では、子供たちの多様なスポーツ機会を確保するため、部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動への移行に向けて取り組んでおります。本大会を契機として、幅広い関係の皆様との連携の下、ますます特別支援学校生徒のスポーツ活動機会が充実するとともに、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた取組が着実に進んでいくことを強く願っています。

結びに、貴財団のますますの御発展と関係の皆様への御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞



福岡県知事  
服部 誠太郎

第2回全国特別支援学校フットサル大会が福岡県において盛大に開催されましたことを心からお喜び申し上げます。

本大会は、共生社会の実現を担う若者の成長に寄与することを目的に、多くの参加者を得て開催されました。全国から集まった選手の皆さんは、フットサルというスポーツを通じて、体力や技術だけでなく、仲間との協力や相手への敬意などの人間性も磨く機会になったことと思います。本大会の開催にご尽力された公益財団法人日本ライオンズの皆さまに深く敬意を表します。

福岡県では、スポーツの力で県民生活をより豊かに、より元気にする「スポーツ立県福岡」を推進しており、県民の誰もが、それぞれの体力や技術、興味・目的に応じてスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めています。

また、誰もがたくさんの笑顔で暮らしていける福岡県を目指して、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し多様性を認め合う共生社会の実現に向けた取り組みを進めています。引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

今後も、全国特別支援学校フットサル大会が継続的に開催され、特別支援学校生徒のスポーツ参加が促進されるとともに、スポーツを通じた交流や共生社会の実現に向けた取り組みが広がっていくことを期待します。

結びに、本大会に参加された選手ならびに関係者の皆さまの今後ますますのご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞



福岡市長  
高島 宗一郎

第2回全国特別支援学校フットサル大会が、福岡市で盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

選手のみなさんが、日々の練習の成果を存分に発揮し、多くの熱戦が繰り広げられたとお聞きしています。仲間とのきずなを深め、また、他校の生徒との交流を通して、成長する素晴らしい大会になったのではないかと思います。改めて、本大会の開催に御尽力いただきました、公益財団法人日本ライオンズの皆様に、深く敬意を表します。

福岡市では、すべての方にとって暮らしやすいまちづくりを進め、「みんながやさしい、みんなにやさしい『ユニバーサル都市・福岡』」の実現に向けて、様々な取り組みを行っております。その中で、第2回全国特別支援学校フットサル大会が、福岡市で開催されたことは、福岡市の障がい者スポーツの発展や、市民の理解を深める上でも大変良い機会であったと考えております。今後も、市民の皆様や関係団体の皆様と連携しながら、障がいのある方々を取り巻く様々な課題の解決に取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、選手のみなさまの今後ますますのご活躍と関係者の皆さまのご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。



全国特別支援学校長会  
会長 三浦 昭広

この度、第2回全国特別支援学校フットサル大会が、福岡県福岡市において盛大に開催されましたことを、心よりお祝い申し上げます。

今回の第2回大会は、前回の第1回大会よりも参加校が多くなったと伺っております。全国から集った特別支援学校の生徒が熱戦を繰り広げるとともに、交流を深めたことと嬉しく思っております。参加生徒には、本大会で得た貴重な経験を、今後の生活に生かしてほしいと願っております。

全国の特別支援学校に在籍する児童生徒の励みや大きな目標となるフットサル大会を開催いただいた公益財団法人日本ライオンズの皆様に敬意を表しますとともに、感謝を申し上げます。貴財団と本大会のますますの御発展を祈念しております。

## 開 催 要 項

- 1 主 催 公益財団法人日本ライオンズ 理事長 不老 安正
- 2 後 援 スポーツ庁 福岡県 福岡市 全国特別支援学校長会
- 3 運営協力 公益社団法人福岡県サッカー協会
- 4 全国大会

- (1)開催期日 令和5年11月4日(土)
- (2)会 場 競技会場:アクション福岡  
宿泊式典:二日市温泉「大観荘」
- (3)日 程 令和5年11月3日(金) 午後3時00分 抽選会・開会式  
令和5年11月4日(土) 午前9時00分 全国大会  
午後5時00分 表彰式・閉会式
- (4)宿 泊 二日市温泉「大観荘」  
住所:福岡県筑紫野市湯町1-12-1 TEL:092-922-3236  
大会参加者及び大会関係者

- 5 地区大会
  - (1)日 程 令和5年7月～9月までの間で、全国10地区において地区大会を開催すること。
  - (2)開催組織 各地区大会は、次の組織等が担当すること。

地区大会	ライオンズクラブ担当	地区大会の担当組織	主管担当
北海道地区	331 小野寺 眞悟	公益財団法人小野寺パラスポーツ振興会	鈴木 重男
東 北 地 区	331 小野寺 眞悟	一般社団法人東北サッカー協会	天本 清隆
東関東地区	330 櫻井 貴裕	関東知的障がい者サッカー連盟	木村 純一
西関東地区	333 川島 正行		
北信越地区	334 橋本 勝策	一般社団法人北信越サッカー協会	谷内 浩仁
東 海 地 区	334 橋本 勝策	公益財団法人小野寺パラスポーツ振興会	鈴木 重男
関 西 地 区	335 松岡 勲	関西知的障がい者サッカー連盟	芥川 豊和
中 国 地 区 四 国 地 区	336 石原 英司	創志学園環太平洋大学サッカー部	桂 秀樹
九 州 地 区	337 識名 安信	一般社団法人沖縄県障がい者サッカー連盟 大分県立大分支援学校	金城 充 清末 直樹

- 6 出場資格等
  - (1)教育課程 特別支援学校学習指導要領に基づく教育課程で学ぶ特別支援学校等であること。
  - (2)チ ャーム 単独校生徒で編成されたチームであること。
  - (3)校長承認 各校は、校長の承認の下で、1チームを参加すること。
  - (4)編 成 1チームの上限は、生徒8名、引率者3名、合計11名で編成すること。
  - (5)補 助 各地区大会出場校は、地区大会予算の範囲内で助成を受けることができる。
  - (6)地区大会 各地区大会は、各地区の状況を踏まえた大会要領の下で開催すること。
  - (7)全国大会 地区大会の優勝校は、主催者が経費負担する全国大会に出場すること。

- 7 競技方法
 

国際サッカー連盟制定のフットサル競技規則を適用するものとする。  
競技規則の詳細は、全国大会要項及び各地区大会要項による。

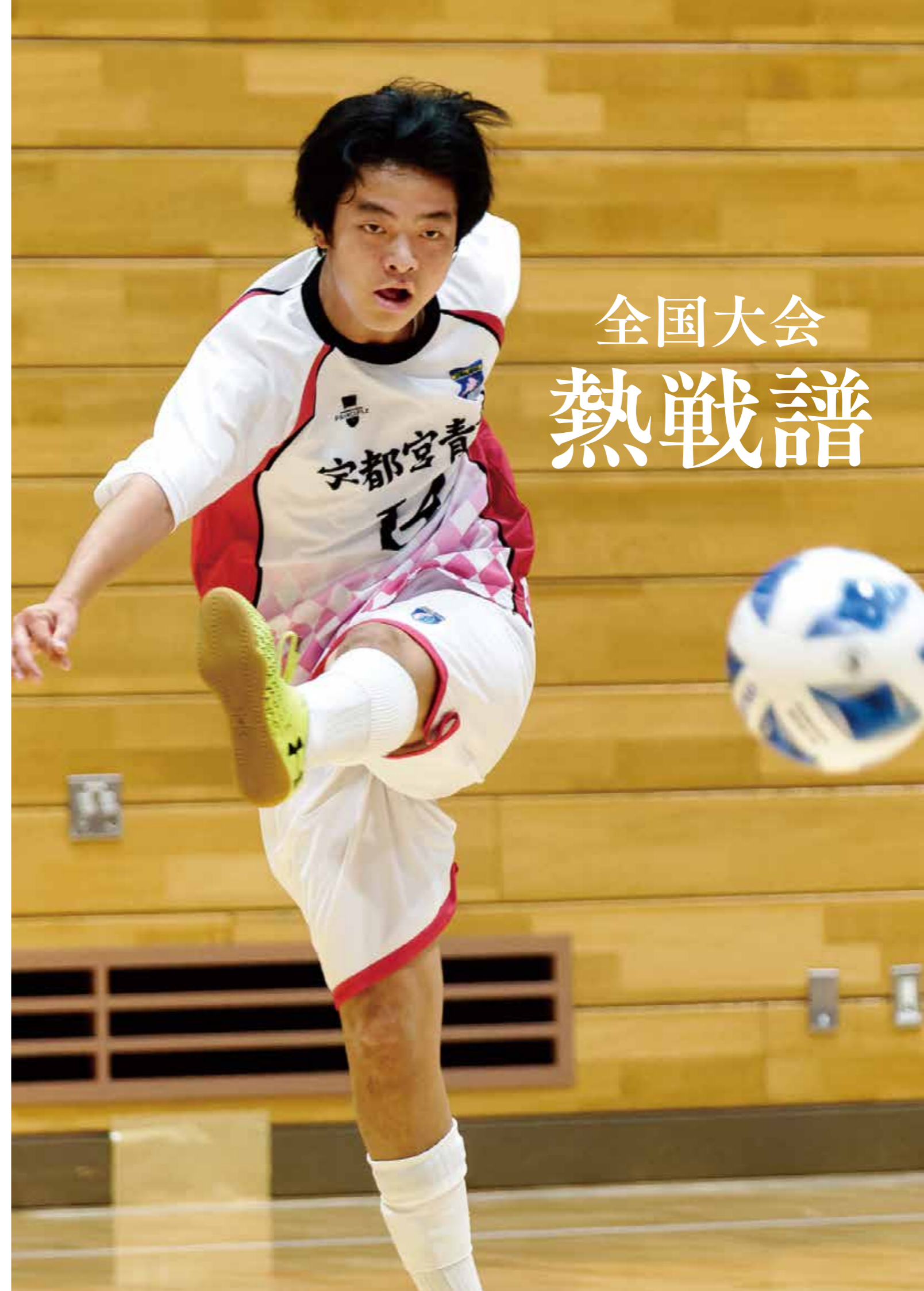
- 8 その他
 

生徒の卒業後の就労・生活等に役立つよう、生徒の主体性を重んじること。

## 運営組織

大会会長	不老 安正	公益財団法人日本ライオンズ理事長
大会副会長	小野寺 眞悟	公益財団法人日本ライオンズ副理事長
実行委員長	池上 信	337-A・4R4Z糸島ライオンズクラブ
実行副委員長	伊藤 敦子	337-A・6R1Z福岡桜ライオンズクラブ

- ・総務委員会**  
 競技場での受付、館内整理、警備、配食 等  
 委員長 岡部 史卓 337-A・4R4Z糸島ライオンズクラブ  
 副委員長 永留 正 337-A・4R4Z大野城ライオンズクラブ  
 委員 337-A・4R4Z大野城ライオンズクラブの皆様
- ・移動/宿泊委員会**  
 各校の移動、宿泊、食事会、選手の支援 等  
 委員長 児嶋 美希子 337-A・6R1Z福岡桜ライオンズクラブ  
 委員 337-A・6R1Z福岡桜ライオンズクラブの皆様
- ・競技委員会**  
 抽選会、組み合わせ、会場整備、競技ルール/運営 等  
 委員長 常住 久芳 337-A・4R4Z太宰府ライオンズクラブ  
 副委員長 山本 泰輔 337-A・6R2Z福岡大名ライオンズクラブ  
 委員 塗木 麻美 337-A・6R2Z福岡大名ライオンズクラブ  
 337-A・4R4Z太宰府ライオンズクラブの皆様  
 337-A・6R2Z福岡大名ライオンズクラブの皆様
- ・審判委員会**  
 担当 審判業務  
 内容 公益社団法人福岡県サッカー協会  
 競技運営、審判業務、フットサルコートづくり
- ・進行委員会**  
 委員長 開閉会式、食事会、交流会進行、競技進行、アナウンス原稿 等  
 副委員長 矢島 啓子 337-A・4R1Z福岡第一ライオンズクラブ  
 委員 劉 玲 337-A・4R1Z福岡ライオンズクラブ  
 337-A・4R1Z福岡第一ライオンズクラブの皆様  
 337-A・4R1Z福岡ライオンズクラブの皆様
- ・救護・トレーナー委員会**  
 委員長 救護、感染症対策全般 等  
 委員 吉田 宗弘 337-A・4R4Z伊都福岡ライオンズクラブ  
 337-A・4R4Z伊都福岡ライオンズクラブの皆様
- ・プログラム作成委員会**  
 委員長 大会プログラムの制作、大会記念誌の制作  
 印刷 木村 健太郎  
 中西印刷株式会社
- ・ボランティア委員会**  
 委員長 ボランティア依頼、依頼先との連絡  
 副委員長 春田 克起 337-A・4R4Z糸島ライオンズクラブ  
 古賀 重徳 337-A・4R4Zつくし中央ライオンズクラブ
- ・ボランティア支援**  
 教諭 大会運営、競技補助、ハーフタイムショー 等  
 櫻内 教昭  
 精華女子高等学校吹奏楽部  
 教諭 平山 豊  
 九州産業大学付属九州産業高等学校サッカー



# 全国大会 熱戦譜

# 宇都宮青葉高等学園が初V!



福岡県福岡市のアクション福岡で2023年11月4日、第2回大会が開催された。本年度は全国10地区の激戦を勝ち抜いた優勝校に加え、開催地枠で福岡県代表、特別枠として台風の影響により九地区大会に参加できなかった沖縄県代表を加え12チームで熱戦が展開された。4チームずつ3ブロックに分かれ予選リーグを行い、順位決定リーグ戦で優勝を競った。

地区大会から参加チームが昨年の70校から111校と大幅に増加した影響もあり、第1回と比較してしっかりと後ろから組み立てるチームが多く、全体のレベルが向上しているのには驚かされた。本大会を目標に選手達の技術やモチベーションが上がっている証左だろう。この事実だけでも本大会が開催される意義があると思う。

その中で激戦を制し優勝したのは栃木県立特別支

援学校宇都宮青葉高等学園だった。まさにドラマチックだった。予選リーグでは3戦目に全勝同士の名古屋聳学校戦で残り数秒で同点に追い付き、得失点差で劇的な1位を獲得、喜びのあまり泣き崩れる選手もいた。1~3位決定リーグでも初戦の横浜市立日野中央高等特別支援学校戦で、終了直前に追いつかれ引き分け、ピンチに追い込まれた。勝つしかない最終戦の奈良県立高等養護学校戦は、プレッシャーに負けず、持ち前のハイプレスから攻勢を仕掛け、常に先手を取り4-2と勝利し涙の初優勝を果たした。フィジカル、メンタルの強さとチームワークが他チームをわずかに上回った印象だ。佐藤玖哉主将は「試合に出ている5人だけではなく、ベンチからも全力で声を出して8人で戦えたことが優勝につながったと思います」と胸を張った

## 予選リーグ試合結果

### Aブロック

	あ	い	う	え	勝ち点	得失点差	順位
あ	■	x	x	△	1	-8	4
い	○	■	○	x	6	6	2
う	○	x	■	x	3	-3	3
え	△	○	○	■	7	5	1

### Bブロック

	か	き	く	け	勝ち点	得失点差	順位
か	■	x	○	x	3	-1	3
き	○	■	○	△	7	8	1
く	x	x	■	x	0	-13	4
け	○	△	○	■	7	6	2

### Cブロック

	さ	し	す	し	勝ち点	得失点差	順位
さ	■	○	△	△	5	3	1
し	x	■	○	x	3	0	3
す	△	x	■	△	2	-4	4
し	△	○	△	■	5	1	2

## 予選リーグ試合結果

### 1位-3位 決勝リーグ

	ア	イ	ウ	勝ち点	得失点差	順位
ア	■	x	△	1	-1	3
イ	○	■	x	3	-1	2
ウ	△	○	■	4	2	1

### 4位-6位 順位決定リーグ

	カ	キ	ク	勝ち点	得失点差	順位
カ	■	x	○	3	-1	5
キ	○	■	○	6	7	4
ク	x	x	■	0	-6	6

### 7位-9位 順位決定リーグ

	サ	シ	ス	勝ち点	得失点差	順位
サ	■	x	x	0	-4	9
シ	○	■	x	3	-1	8
ス	○	○	■	6	5	7

### 10位-12位 順位決定リーグ

	タ	チ	ツ	勝ち点	得失点差	順位
タ	■	○	x	3	0	11
チ	x	■	△	1	-1	12
ツ	○	△	■	4	1	10



# 栃木県立特別支援学校 宇都宮青葉高等学園

〒320-8506 栃木県宇都宮市京町9番32号  
全校生徒/221人 部員/16人

## 柳田嘉紀監督

「どのチームも強く1試合1試合必死に戦って、今までやってきた練習どおり、最後まであきらめずひたむきにプレーしてくれた結果が優勝の要因だと思います。特に守備の意識を高く持って粘り強く戦ってくれました。生徒の頑張りや予想以上でしたし、大会中も成長を感じました。3年生3人がチームを引っ張り、2年生2人がそれについていき、新しく入った1年生3人が伸び伸びプレーしていたので、まとまりがあるチームになったと思います。自分は9月から監督になったばかりで、実質は前監督の小口拓海先生が作り上げたチームです。体調の関係で監督を退かれましたが、東関東大会は小口先生が率いて全国大会出場を決めましたし、先生のために勝ちたい、優勝したいという思いも、まとまりを生んだと思います。優勝して泣く選手もいましたし、ここに懸ける思

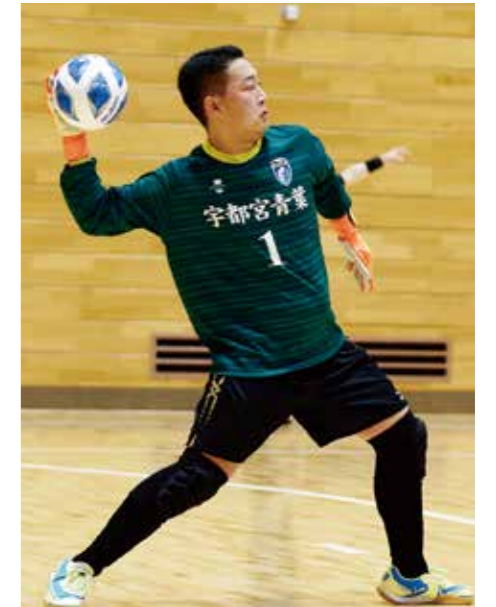
いの強さを感じました。小口先生が退きチームのモチベーションも一時期は落ちたのですが、『逆だろう、小口先生のためにも優勝しよう』と言い聞かせてきました。プレーでは小口先生がつなが意識を基礎から徹底して指導していたので、大会でも出せたと思います。日本ライオンズ様主催の素晴らしい大会が開催されたということで、小口先生の熱い思いもあり、今年度の予選から参加させていただくことになりました。その目標が普段の学校生活から意識を変えることになり、あいさつや授業への取り組みに変化があり、モチベーションになりました。優勝という結果を過信せず自信にしてほしいですし、3年生は社会に巣立つのでこの経験を役立ててほしいと思います」



## 佐藤玖哉主将

「優勝は仲間のおかげで、仲間を信じ切れたことが要因だと思います。予選リーグからギリギリの戦いが続きましたが、優勝へ向かうという気持ちで、1人ひとりの思いがそろっていて、なおかつベンチからも声が出ていたので、8人全員で戦えたと思います。決勝リーグの2試合目で終了直前に追いつかれ引き分けましたが、頼れる仲間なので次もやってくれると信じていましたし、自分は最後の奈良戦の前に改善点などを支持して、ベンチでの声出しやサポートで全力を尽くしました。小口先生のためにという思いはとても強くて、勝って恩返しをす

るというのがサッカー部としてのひとつの目標であり、練習してきたので結果につながったのはうれしく思います。全国大会までに小口先生の時のつなぐサッカーをベースにしなが、フォーメーションやマークの徹底などを重視しながら練習してきました。フィジカルの強い選手も多いですし、失点の少なさにつながったと思います。カウンター攻撃を受けた時の戻りがチームの課題でしたがベンチからも声を出してリカバリーできたのも結果につながりました」



## 驚異の粘りで前監督に捧げる涙の初V







# 奈良県立高等養護学校

〒636-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森34-1  
全校生徒／200人 部員／16人

## 金坂彰浩監督

「去年、関西大会決勝でなにわ高等支援学校さん(昨年度全国優勝)にPKで負けて、その悔しさを知る選手が3年生になり、なにわさんにリベンジして地区優勝できました。今大会に関しては全国優勝を目指し、社会人のチームにも練習試合をしてもらうなど充実した練習をさせてもらいました。主将の石井君はずば抜けたサッカーIQを持つ選手で、今年はサッカーの知的障碍者U-18関西トレセンに選ばれ、本気でサッカーに取り組むようになりました。この大会に懸ける気持ちも大きかったのですが、準優勝に終わって号泣していました。ホンマに悔しかったみたいです。ただ、このような思いも選手達の人生において、今後のプラスにしてほしいです。日本ライオンズ様のご尽力のおかげで、本当に良い経験をさせていただいたと思います。大会自体は今

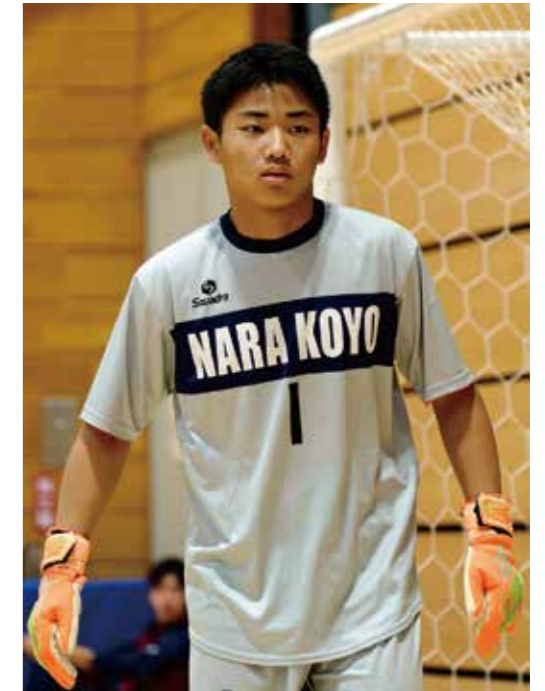
年の関西大会が昨年以上にレベルが上がっていて勝つのが難しかったですが、全国も同様でした。優勝した宇都宮青葉さんは、非常にタフで体幹が強い選手が多く充実したチームで、うちは引き分けでも優勝でしたが、完敗でした。チームとしてはケガ人も多く、様々な事情で綱渡りの状況が続き、今大会もベストの布陣ではなかったですが、主将を中心に良く戦ってくれました。自分自身も全国大会決勝の舞台を経験するのは初めてで高揚感もありましたが2位に終わり、W杯決勝で負けるチームはこんな気持ちなのか、と感じるぐらいメチャクチャ悔しかったです。選手達は『勝って監督を泣かせたかった』と言ってくれましたが、勝たせてあげられなくて残念です。来年度への糧にして練習に励みたいと思います」



## 石井力斗主将

「最後の宇都宮との対戦では引き分け以上で優勝だったのですが、相手の勢いに飲まれてしまいました。2位でしたが満足はしていません。優勝したかったです。関西トレセンに呼ばれてサッカーに向き合う意識も変わり、チームを引っ張る気持ちが強かったです。今大会はシュートを結構打ったのですがなかなか決められず、メンタル面での切り替えが難しかったです。自分ももっとゴールを決めれば勝てたはずで、全国大会に懸ける思いも強く、本当にたくさん練習してきた、このチームなら

優勝できると思っていたので、これでも勝てないのか、という気持ちが出て涙が出てしまいました。宇都宮とはコミュニケーションや、戦術、パス精度の面で差がありました。僕自身は負けた瞬間、サッカーを続けるモチベーションを失ったのですが、時間がたって、課題も見つかってもっとうまくなる、上を目指せると思いましたし、またトレセンに呼ばれて日本代表を目指したいです。後輩には2位以上の成績を目指して欲しいです」



## 寸前で逃した優勝 悔し涙を忘れない





# 横浜市立日野中央高等特別支援学校

〒234-0053 神奈川県横浜市港南区日野中央2-25-3  
全校生徒／191人 部員／15人

## 松木隆太郎顧問

「神奈川県勢としては当校が唯一の出場で、今年も東京都予選に出させてもらい優勝し、関東大会を突破し全国に出場することができました。生徒達が1試合1試合成長する姿を見せてくれて、学校全体でも応援していただきました。色々な場所で支えてくれた方々のおかげで、日本ライオンズ様の力も借りながら、ここまで来られました。生徒達もチームとしてフットサルを楽しむという思いで出場して、それを実践し、本当に一回りも二回りも成長したと思います。皆様のおかげで良い経験ができました。生徒たちは特に、感謝の気持ちを持つことができました。これだけの人が動いて大会が成り立つこ

となど、学校内では感じるできません。このような場に来ることで生徒も『しっかりしなければ』と感じられるので本当に貴重な経験になっています。福岡に来たばかりの時と大会が終わった今を比べても、目に見えて生徒がしっかりしたと感じています。プレーヤーとして以上に、当校が大事にしているのは卒業後の就労なので、人として、社会人としての立ち振る舞いなどに気づいてくれたことは大きいと思っています。サッカーが上手くても就職できたりはしないですし、人として学校生活ありきの部活動と思っていますので、これからも生活態度や立ち振る舞いなどを意識して指導を心掛けたいです」



## 齋藤光汰主将

「チームの目標を『楽しんで勝つ』と皆で掲げて戦ってきましたが、最後まで笑顔を見せて協力しあいながら戦う姿勢を見せられました。また、福岡に来られなかったメンバーが7人いるのですが、彼らの思いも背負ってしっかり戦えたと思っています。3位という結果以上に、さらに絆を深められたことがうれしいですし、良い機会になりました。試合ではそれぞれの個性が出せたら良いと思っていて、攻守の切り替えを意識して、失敗を恐れ

ずにパスでミスしたとしても、全員で取り返すという気持ちで取り組んでいました。全国の仲間と試合できたことはすごく楽しく良い経験になりましたし、色々な人の支えがあって大会ができていて、この場にいられることは当たり前ではないという感謝の気持ちを学びました。この経験を学校に持ち帰って学校生活にも生かしたいと思っています」



# 『楽しんで勝つ』を実践し3位





# 愛知県立名古屋聾学校

〒464-0021 愛知県名古屋市千種区鹿子殿21番1号  
全校生徒／90人 部員／15人

## 筒井舞監督

「予選リーグで優勝した宇都宮さんとの試合で残り数秒で追いつかれて引き分け、得失点差で2位となってしまう1～3位リーグに進出できず、優勝できなかったことがとても悔しかったです。昨年は10番の加藤選手が目立っているチームでしたが、今年は彼が主将としてチームメートを巻き込んでリーダーシップを取ってコミュニケーションを取りながら全国優勝を目指してきたのでチームワークもすごく高まりました。サッカー部は3年前に職員会議で廃部が決まっていた、昨年の3月に廃部となりました。ですが生徒たちが第1回の全国大会で5位という結果を出し、優勝したい、リベンジをしたいという思いが強く、5月に新しくサッカー部を創部することができ

ました。活動できない期間は指導者やスタッフは創部の準備も必要でしたし、生徒たちはほかの部活に参加したりもしていました。復活できたことは奇跡に近いですし、生徒の頑張りや、後押ししてくれた学校の先生たちや、日本ライオンズ様のご協力や、関わるすべての方のサポートのおかげだと感じていますし、感謝しかありません。優勝できなかったことは選手もスタッフもすごく悔しく感じっていますが、加藤主将は11得点を挙げ、個人的には大会のベストプレーヤーだと思います。来年度は彼の抜ける穴は大きいですが、この経験を生かし、チームワークで全国大会に戻ってきたいと思います」



## 加藤豪主将

「昨年の大会よりもパスワーク、チームワークが高まっていて良い試合ができたと思います。第1回は5位で今大会は優勝を目指していました。リベンジできなかった悔しさはありますが、来年、後輩たちに優勝して欲しいです。1度サッカー部は廃止になりました。一昨年、東海大会を優勝し、全国大会でも5位になったのに、なくなるのはどうしてだろうと疑問でした。ぜひ復活させたいと思い、また立ち上げることができました。復活

したのはすごくうれしかったです。試合では11得点できましたが、まだまだ足りない面があると思います。ゴールは仲間たちのおかげです。今回はフィクソでプレーして、自分の得点よりもしっかり仲間たちと組み立てていこうという気持ちが強かったです。大会全体としてもレベルが上がりましたし、チームの数も増えて驚きました。強いチームと試合できるのはすごく楽しかったし、良い思い出になりました」



## 廃部を乗り越え4位躍進





# 島根県立松江養護学校乃木校舎

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町733-2  
全校生徒／88人 部員／13人

## 木次雄作監督

「第1回大会は準優勝で今年こそ優勝と選手も強く思っていました。本校のレベルも上がっていましたが、周りのレベルもすごく上がっていました。5位と負けてしまいましたが、全体のレベルが上がったことは良いことだと思っています。去年は乃木校舎単体で出ましたが、松江養護学校は3校舎あり、夏場にセレクションなどを行い他校舎の選手も加わり『チーム松江』で臨みました。今大会を通して、3校舎の絆が深まったと感じて、その点ではすごく良かったです。松田理音主将は強烈なシュートを持っているのですが、優勝したいプレッシャーや責任感が裏目に出てあまり決められませんでした。それでも気持ちを切らさずに、試合に向かう円陣でも良い言葉をかけてくれてチームに貢献してくれました。昨年

は決勝で疲れもあって完敗したので、今回に向けて体力をつける専門的なメニューにも取り組みましたし、前回大会で結果を残したおかげで部員も増えました。人数が増えるとやれることも増えますし、今回の結果も踏まえて第3回に向けて松江養護学校全体でレベルアップを続けていきたいと思っています。結果も大事ですが、自分が頑張って、一生懸命やって友達や周りに褒められるという喜びを増やすことが必要だと思います。第1回のメンバーが5人残って、強化練習の体育館準備などを彼らが率先して行ってくれたり、今回の遠征でも新しいメンバーに対してアドバイスしてくれたり、他校と積極的に交流していたので、大会を通じて着実に成長を見せてくれたと思います」



## 松田理音主将

「去年が準優勝で今年は5位に終わってしまい悔しい結果でした。自分たちのやりたいことができなかったです。集中して臨みましたが、緊張という部分があったと思います。僕自身もシュートを数多く打ちましたが、あまり決められませんでした。この大会の前に国体に出たのでその疲れが残っていて抑えが利かなかったかもしれません。今年は優勝を目指してパスワークや切り替えの速さを重点に練習してきました。パスはつながってい

ましたが、切り替えは遅かった面もあり、もっと集中してやれば良かったと思います。去年は最後まで体力が持たず決勝でボロボロに負けたので、走り込みを増やしましたし5試合できる体力もつけて、やれることはやってきました。でも、結果がついてこなかったのは本当に残念です。2年生が4人いますし後輩には来年こそ優勝してもらいたいですし、卒業しても練習に参加したいですし、色々と協力したいと思っています」



## 「ONE TEAM」となり深めた絆





# 大分県立さくらの杜高等支援学校

〒870-0823 大分県大分市東大道二丁目5番23号  
全校生徒／62人 部員／12人

## 小澤剛史監督

「九州大会を優勝し初出場となりましたが、とても良い経験となりました。生徒も数々の初めての体験を通して記憶に残る大きな財産をいただいたと思っています。温かい雰囲気のもと、生徒もリラックスして戦えたと思います。全国のレベルはどれも高く、日ごろからよく練習されている感じが伝わってきました。

各地区のチームと対戦して、フィジカル面が圧倒的に足りませんでした。チームとしての戦術の強化も必要だと感じました。

本校はサッカー部というものはなく、あくまで運動部という名目でさまざまな運動を体験することが目的で部活動を実施しています。運動部の部活生の中から、大分大会、九州大会に向けセレクションを行い、12名のメンバーを選び戦ってきました。ほとんどの生徒がフットサル未経験だったため、ルールや基本的な技術から指導し

ていく難しさはありましたが、生徒は意欲的ですがすぐに上達していききました。また、体育館も改修工事で使用できなかったため、近隣の学校の体育館を借りて週1回の練習で効率よく練習することに努めてきました。九州の代表に選ばれた時点で、選手たちには代表という誇りとともに、その名に恥じないよう自分の毎日の生活を振り返るよう指導してきました。選ばれなかったメンバーや常にサポートしてくれる家族や周囲の人たちへの感謝を忘れず、行動するよう伝えてきました。

大会を通じて他人への接し方や集団での行動が、周囲を意識した姿に変わっていく様子がかがえました。部活動を通じて自ら考え、行動し、努力する選手を育てたいと思っています。自他を尊重し、常に挑戦する姿勢を持つことで、「人に信頼される人」「応援される人」に育ててほしいという思いで指導しています」

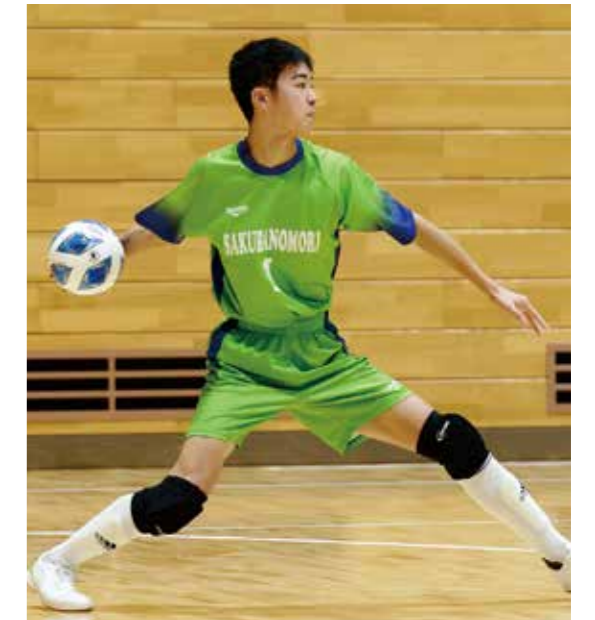


## 眞田獅苑主将

「全力で戦いましたが、6位という順位は今の自分たちの実力では妥当な結果だったと思います。このチームは流れをつかめばどこにも負けずチームですが、全国大会は九州大会とはレベルが違いました。ゴール前の決定力が不足しているため、オフェンスを強化する必要がありますと感じました。それでも、創設約5カ月のチームとしては全員でとても頑張れたと思います。自分自身、試合中はチームの誰よりも声を出して、冷静な判断を心が

けていました。チームをまとめる力や責任感を本大会で学べて成長できたと思っています。試合以外でも福岡高等学園の皆さんとバスの中で交流があり、とても楽しかったです。

選手宣誓は初体験でとても緊張し手汗が止まらなかったですが、12校の代表として恥じないよう、胸を張って堂々と宣誓したつもりです。自分自身に100点をあげたいと思います」



# チーム立ち上げ5カ月の快進撃





# 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」

〒818-0047 福岡県筑紫野市大字古賀304  
全校生徒／114人 部員／15人

## 奥山英樹監督

「九州大会を3位で終わり閉会式の時に開催地枠としての出場をサプライズで発表され、参加できると思っていなかったの、生徒たちも喜びは大きかったです。ですがホストチームとして1勝もできなかったら、という思いもありプレッシャーを感じていました。予選リーグでも優勝した宇都宮さんと2点差、4位の名古屋さんにも1点差負けと大きな力差は感じませんでしたし、生徒たちは1人ひとりが実力以上の力を出してくれました。試合中は指導者がベンチから支持を出せない中で、私たちが伝えたいことを、ベンチの選手が声を出してカバーしてくれました。個の力というよりもチームがひとつにまとまった結果だと思います。初めて大会に参加し、雰囲気

気は活気や盛り上がりがあり、正直、レベルの高さに驚きました。ボールを止める、蹴る、をしっかりとできる選手が多かったですね。指導者としても、戦術や技術レベルをどの程度まで上げなければいけないかを確認できました。このような大会があると学校外でいつもと違う経験を通じて成長がみられますし、2泊3日の活動のなかでサッカー以外の面でもたくさん成長してくれました。主将も普段は人前で話せないのですが、大勢の前で学校紹介ができましたし、夜もミーティングを行い、自分たちで声をかけあって行動していました。そういう意味でも、とても意義のある大会でした」



## 本村優斗主将

「開催地枠ということで大会に出させていただき、結果は7位でしたが、3勝できましたし、楽しくフットサルができました。やはり全国レベルは高く、自分たちには攻守の切り替えの速さが足りなかったと感じました。九州大会の準決勝で負けた時には全国大会はあきらめていたので、出られたことはとてもうれしかったです。僕た

ちはとても仲の良いチームで、全国へ向けて基本的なパス練習を中心に強化してきました。先生にもどちらの足にパスが欲しいとか、しっかり声かけしろと言われてきました。その成果は出せたと思います。地元でしたし応援も心強かったです」



## 開催地枠出場も強豪に善戦





# 富山県立富山高等支援学校

〒939-2206 富山県富山市坂本2600  
全校生徒／54人 部員／11人

## 河村拓監督

「初出場ということで全国レベルが分からない状況の中、自分たちのやってきたことを全部出し切れるよう、チーム内で互いに高めあいながら大会に臨みました。率直に全国レベルは高いと感じました。その中でも生徒の皆がバラバラな個性がある中で、この大会を目指し、そして大会中もまとまってお互い声を掛け合って、すごいチームになりました。大会の中でも皆の絆が深まって、全国の強豪相手にも協力して立ち向かって

れ、また、すべての出場校がライバルであり仲間なのですが、仲間たちともすごく楽しそうに試合してくれました。本当に生徒達にはありがとう、という言葉しか思い浮かびません。1日5試合とハードな日程でしたが、生徒たちは負けた後も切り替えて、次に何をするかなど声を掛け合っていた面もすごく成長を感じています。指導者としても技術戦術だけではなく、行動面や体調管理など様々な面で高める必要がありました」



## 新鞍大介主将

「初めての全国大会出場なので不安や緊張がありましたが、自分たちの力を出せて、やり切ったと思うので悔いはないのですが、やはり全国レベルは高かったです。地区で優勝したチームの方々との試合はハイレベルで勉強にもなりまして、楽しかったです。全国で通用するには今まで以上にチームワークやコミュニケーションが必要で、後輩達には仲良く声を掛け合って助け合いながら、来年度も全国大会に戻ってきてほしいと

思います。このチームは1人ひとりが相手の良さを気づける面や、一生懸命になれるところが特徴で良いチームだったと思います。この大会は雰囲気も素晴らしく、とても良い経験になり、ずっとフットサルやサッカーを続けたいという気持ちになりました。大会の雰囲気も良かったですし、ほかの地域の選手とも友達になれましたし、楽しくプレーできましたし、全力は出せました。仲間と一緒にプレーできたこともうれしかったです」



## 力を出し切り勝ち取った2勝





# 沖縄県立中部農林高等支援学校

〒904-2213 沖縄県うるま市字田場1570番地  
全校生徒／30人 部員／15人

## 竹本理人監督

「全国大会が初めてでしたが、この大会にむけ生徒たちは一生懸命、毎日練習に励みこの日に備えてくれました。最初は緊張した面がありましたが、途中から慣れてきたようで良いプレーもありました。練習の成果はしっかり発揮してくれたと思います。台風の影響で九州大会に出られず、九州大会を目指し大会前日まで練習し意気込んでいましたが直前で飛行機が飛ばず不参加となり、残念に思っていたところ、日本ライオンズ様から

特別枠で出場できるというお話をいただきました。生徒たちも全国大会に行けるありがたみや喜びをかみしめながら、さらにチームワークなどを養い高めていきました。大会中も一丸となって取り組んでいたと思います。全国大会を肌で感じて、指導者も生徒達もまだまだ課題が多いですし、戦い方や対策を学べ、刺激になった機会になりました。次回大会を目指して練習を頑張っていきたいです」



## 山田政和主将

「1勝4敗という結果は仕方ないと思っています。皆、ここを目指してやってきたことは全部出せたと思っています。このチームは初心者が多いですが、全国大会で1勝できたことは大きかったと思います。失敗したことは気にしないで、できなかったことを指摘ばかりしていたら個人もチームもテンションが落ちてしまうので、うまくできた

ことを誉めることを心掛けチームを引っ張ったつもりです。みんなよくついてきてくれたと思います。実際全国でプレーしてみても楽しかったですし、レベルの高さもわかりました。また来年度を目指して、後輩たちがどれだけ頑張れるか期待したいと思います」



## 特別枠出場で喜びと感謝の全力プレー







# 市立札幌みなみの杜高等支援学校

〒005-0012 札幌市南区真駒内上町4丁目7-1  
全校生徒／161人 部員／8人

## 金子裕監督

「全国大会に出場できるとは思っておらず、出場できたことが光栄に思っていて、連れてきてくれた選手たちに感謝しています。対戦相手をもりと強豪校ばかりでしたが、その中でも生徒は全力を出し尽くしてくれて頑張ってくれる姿には涙が出ました。予選リーグは最下位でしたが、2位の奈良県立高等養護学校さんに引き分けるなど、結果以上に生徒たちは120%の力を出してくれたと感じています。最初は緊張がありましたが、先に得点されてもあきらめず、勝ちたい気持ちを出してくれて、試合を重ねるにつれてチームワークが良くなることを感じ取れました。得点機会は作っていましたが、決め切れなかったことが、この結果になりましたが、実習などが

あり全員が集まる機会がほとんどなかったこともあり、来年度はもっと早く準備して修正できればと思います。全国の壁は厚いと感じましたが、生徒達も大会を経験してモチベーションが上がっていると思います。2年生が4人、1年生が2人いますので、来年度の楽しみがあると思います。大会を通じて札幌市や北海道代表として出場するという責任感が生徒の意識を変えました。人の話をしっかり聞く、制服を整えるという基本的なことや、練習でも指導者に頼り切りだったのが、主体的にできるようになり、準備運動や基礎練習まで自分たちでやるようになり、人として成長を見せてくれました。得るものがたくさんあった大会でした」



## 池田龍星主将

「10位という結果は良かったとはとても言えませんが、選手1人ひとりが一生懸命に取り組んでくれたと思います。正直、最初はメチャメチャ緊張しましたが1試合目の途中から落ち着きが出てきて、失点しても『ドンマイ、ドンマイ』と声かけができました。本当に良いチームだと思っていて、面白い仲間たちです。みんなで話し合っていますし、失敗しても『次がある』と励まし合えるチームでした。コミュニケーションや声掛けは主将として意識して

きました。楽しいフットサルを目指していて、パスワークを中心にプレーが荒々しくならないよう、クリーンなプレーを心掛けていますし、その部分は出せたと思います。全国大会のレベルは北海道とは全然違いました。プレー面もそうですが、コーチングとかチームワークがすごかったですね。でも強いチームとの試合は楽しかったです。1、2年生が多いので後輩たちにはこの経験を生かし、来年度も全国に出場してほしいですね」



## 力を出し尽くし確かな成長





# 宮城県立小松島支援学校

〒981-0906 宮城県仙台市青葉区小松島新堤2-1  
全校生徒/273人 部員/8人

## 秋葉行監督

「初めて全国大会に参加させていただきましたが、主催の日本ライオンズ様をはじめ、たくさんの方々に素晴らしい会場の提供や交流会などを催していただき、大変感謝しております。子供たちにとって非常に成長できる場として大会を経験することができ本当に感謝しております。結果は11位でしたが、何とか得点を、何とか1勝を挙げようということを目指して戦うことができ、1勝することができ大変良かったと思っています。当校はサッカー部がありませんので、外部のクラブ経験者やまったくの初心者など、サッカー好きの生徒が集まって練習に励みました。うまく行く時、行かない時、様々な場面があるのですが、声を掛け合って楽しそうにプレーしてくれた

のが何よりうれしかったです。宮城県内のフットサル交流会に参加の声がかかったときに初めて今のメンバーを集めたのですが、どれぐらい自分たちの力が通用するのか、そのような機会があれば試したいと声が上がったのが出場のきっかけでした。予選に参加し、優勝できると思いませんでしたが、生徒の頑張りによって優勝することができました。全国大会は規模も非常に大きくて、各校の皆さんもたくさん練習してきた様子も感じられ、勉強になりました。生徒たちにも大変良い刺激になったと思っています。2年生が3人いるのですが来年度の話や、もっとうまくなろう、という言葉も出ていますので、高い志の源になったと思っています」



## 佐藤昌俊主将

「全国大会もまず楽しくやろうというのが目標で、皆が思っていたよりも良い結果を残してくれたので、大きな舞台で試合ができたことも、1勝できたことも、勝ったことも負けたこともすべて良い経験になったと思っています。やはり全国レベルは高かったですね。全国の強豪チームと試合ができたことは本当に光榮に思いますし、これを経験に次につなげていきたいと思っています。チームは部ではなくサークルという形で、ぼくは社会人のクラブチームに入っていますが、サッカー経験のない選手も多い中、東北大会を優勝して全国大会に出場できたということ

が、皆が練習を頑張ってきた証だと思います。主将として、まずサッカーで一番大事なのはコミュニケーションだと思っていて、ミーティングを重ねて話し合い、自分が考えたトレーニングメニューを仲間たちが一生懸命やってくれました。自分も全国大会は初めてですし交流会や食事会も含めて、1人の人間として良い経験をさせてもらいましたし、後輩や学校の仲間にも伝えていきたいです。この大会出場が部に昇格するきっかけになれば自分としてもうれしいです」



## 初心者も奮闘し貴重な1勝





# 香川県立香川東部支援学校

〒769-2302 香川県さぬき市長尾西475番地  
全校生徒／149人 部員／18人

## 宮本覚監督

「最下位は残念でしたが、自分たちができることを精一杯やっての結果ですので受け入れています。次がある子供たちと勝つには何が必要か、練習や生活をどのように変えていけば良いのか考えていきたいと思います。去年は5人で今年は6人のメンバーで臨みました。四国大会は7人だったのですが、エースが残念ながらアクシデントで不参加となり、6人でしっかりやってくれました。全員が試合に出られたのも成果だったと思います。昨年もそうでしたが、今回も子供たちは非常に成長してくれました。試合日の朝と夜を比べても大分様子も違っていましたし、主力選手がいない中、今まで彼に頼っていた分を全員で補うことをゲームの中で学習し、できていたことは良かったですね。この大会の、ゲーム中に指

導者は支持できないというルールが大きく、だからこそ子供たちが考えて判断し決めるという場面や、コーチングが増えました。それが個人的にはこの大会の素晴らしいと思う所で、自分たちが普段の指導でも心掛けなければならないと、改めて勉強になる1日でした。この大会に参加することで人としても成長しています。昨年と比べても食事マナーやアリーナや観客席でのマナーなどは、明らかに向上していますし、個人個人が強く意識していると思います。この大会に来るだけで子供たちの顔つきが変わりますし、出場する喜び、負ける悔しさは学校生活では絶対味わえないですし、ぜひ来年度も出場して1回でも勝てるよう研鑽を積んでいきたいです」



## 池田龍星主将

「2年連続出場し、去年は1得点しかできませんでした。今回は勝つことができずに最下位でしたが、最後の試合で2得点できたので、成長したと思いますうれしかったです。全国レベルは去年以上に上がっていて、皆さんとても強かったです。でも、みんなでまとまって自分たちの力を出すことはできました。全国大会に向けて、学校の先生とパス、ドリブル、シュートなどいろいろな練

習をしました、全国で勝つにはパス回しと、声出しが足りないと感じ、その部分をもう少し練習していれば勝たかかも知れない試合はありました。昨年度から1人増えても6人で戦うことはハードでしたが、協力しあって楽しく試合することができました。全国の仲間との交流も楽しめて名古屋聾学校の2人の選手と友達になることができました」



## 最少6人で懸命に走って健闘



# 開会式

福岡県二日市温泉 大観荘



## 国歌斉唱 高らかに



開会宣言・小野寺眞悟副理事長



大会会長あいさつ・不老安正理事長



祝辞・中野康子福岡高等学園校長



祝辞・江口勝福岡県副知事



祝辞・高島宗一郎福岡市長(ビデオ)



閉会宣言・石原英司理事

# 感謝と期待と闘志胸に秘め

### 選手宣誓

宣誓 第2回となった この全国特別支援学校フットサル大会に向けて わたしたち 全国12校の仲間は 限られた時間の中で 力いっぱい練習に励んできました。この大会を開催していただいた 多くの人々に感謝しながら チームメイトとの信頼と絆をもとに 自ら考えて判断し 対戦チームへの敬意を持って 最後まで全力でプレーすることを誓います。

大分県立さくらの杜高等支援学校 キャプテン 眞田 獅苑



学校紹介・名古屋主将あいさつ



組み合わせ抽せん



監督会議



組み合わせ抽せん

# 閉会式

福岡県二日市温泉 大観荘



1位表彰・宇都宮青葉高等学校



国歌斉唱



開会宣言・橋本勝策理事



2位表彰・奈良高等養護学校



3位表彰・横浜市立日野中央

# 友情と歓喜と感動残し閉幕



各チーム主将集合



名古屋豊学校のみなさん



富山県立富山高等支援学校のみなさん



次期実行委員・野村政司



閉会宣言・池上信実行委員長

# 大会講評



ライオンズクラブ国際協会337-A地区(糸島ライオンズクラブ)

第2回大会実行委員長 **池上 信**

私は競技に関しては門外漢なので、大会全体や運営を振り返りたいと思います。

第1回大会(札幌市)は小野寺眞悟副理事長が運営する公益財団法人小野寺パラスポーツ振興会の方々の協力を得て開催され、日本ライオンズ単独での運営は本大会が実質的には初めてになりました。開催地の福岡県を始めとする若手を中心にベテラン、女性で実行委員会を2023年3月に立ち上げました。まず、競技や大会の意義などをメンバーに理解してもらうことから始まりました。

実際、大会が始まって実行委員会や協力していただいたスタッフの皆さんをはじめ、九州のライオンズメンバーにも観戦してもらいましたが、異口同音に生徒の皆さんの行動や試合ぶりに感動した、という感想が聞かれました。1試合ごとに生徒の皆さんが成長していく様子がこちらにも伝わってきて、開会式や閉会式などの節度ある様子を見ても、大会が目指している『リスペクト』『自立』が少しずつ根付いているように思います。

大会を運営して感じたことは、支援者のご協力がなければ成り立たないということです。地区大会からパートナー様なしでは地区予選すら運営できないだろうと思います。日本ライオンズ理事を中心に各地区担当者が配置されていますが、実務上はパートナー様に頼らなくてはなりません。九州を例に取れば福岡県サッカー協会に審判をお願いしました。審判の方がいなければフットサルコートも簡単には作れませんでした。あらためてこの場を借りて各地区のパートナー様やサッカー協会の皆さまにはお礼を申し上げます。

今後は出場校が増えていくことで、金銭的負担も大きくなります。日本国内で公益財団法人日本ライオンズがまだ認知されていない現状を踏まえ、財団や大会の外部へのPRを行い、協力を得ることも必要でしょう。また、各地区ライオンズが組織だって協力体制を作り、地区予選から運営のノウハウを作り上げていかなければ、大会自体を長く続けられないと感じています。

我々としまでも、今後もよりよい大会に発展していけるよう、各地区の支援者の皆さまのご指導とご協力を仰ぎながら、たゆまぬ努力と成長を続けていく所存です。

# 第2回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会参加校一覧

参加校数	参加校名	参加校数	参加校名
北海道地区大会 19校	北海道星置養護学校ほしみ学園 北海道高等聾学校 北海道釧路鶴野支援学校 北海道小平高等養護学校 北海道伊達高等養護学校 北海道紋別高等養護学校 北海道今金高等養護学校 北海道函館高等支援学校 北海道中札内高等養護学校 北海道白樺高等養護学校 北海道札幌あいの里高等支援学校 北海道小樽高等支援学校 北海道新篠津高等養護学校 北海道札幌高等養護学校 市立札幌みなみの杜高等支援学校 北海道千歳高等支援学校 札幌市立札幌豊明高等支援学校 臺灣台北市立啓聡学校 臺灣台南大学付属台南啓聡学校	西関東地区大会 8校	東京都立青峰学園 東京都立永福学園 東京都立志村学園 東京都立南大沢学園 東京都立府中けやきの森学園 東京都立東久留米特別支援学校 東京都立羽村特別支援学校 横浜市立日野中央高等特別支援学校 茨城県立水戸高等特別支援学校 茨城県立日立特別支援学校 茨城県立常陸太田特別支援学校 茨城県立鹿島特別支援学校 茨城県立土浦特別支援学校 茨城県立結城特別支援学校 千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校 千葉県立特別支援学校流山高等学園 千葉県立市川大野高等学園 栃木県立宇都宮青葉高等学園
東北地区大会 7校 (6チーム)	秋田県立栗田支援学校 秋田県立ゆり支援学校 秋田県立支援学校天王みどり学園 岩手県立盛岡峰南高等支援学校 学校法人カナン学園三愛舎 宮城県立支援学校女川高等学園 宮城県立小松島支援学校	北信越地区大会 7校 (6チーム)	富山県立富山高等支援学校 富山県立高岡高等支援学校 石川県立明和特別支援学校 石川県立いしかわ特別支援学校 石川県立小松特別支援学校 新潟県立江南高等特別支援学校 新潟県立江南高等特別支援学校川岸分校
東海地区大会 11校	岐阜県立可茂特別支援学校 岐阜県立西濃高等特別支援学校 愛知県立大府もちのき特別支援学校 愛知県立名古屋聾学校 愛知県立春日井高等特別支援学校 岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 岐阜県立海津特別支援学校 三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 静岡県立浜松特別支援学校 静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校	中国地区大会 9校	島根県立益田養護学校 島根県立松江養護学校川津校舎 島根県立松江養護学校乃木校舎 島根県立松江養護学校安来分教 岡山県立倉敷琴浦高等支援学校 島根県立出雲養護学校 広島県立黒瀬特別支援学校 岡山県立岡山南支援学校 山口県立宇部特別支援学校
関西地区大会 22校	大阪府立たまたがわ高等支援学校 大阪府立とりかい高等支援学校 大阪府立むらの高等支援学校 大阪府立なにわ高等支援学校 大阪府立泉北高等支援学校 大阪府立東淀川支援学校 兵庫県立東はりま特別支援学校 兵庫県立高等特別支援学校 兵庫県立北はりま特別支援学校 兵庫県立のじぎく特別支援学校 兵庫県立西神戸高等特別支援学校 兵庫県立氷上特別支援学校 兵庫県立いなみ野特別支援学校 京都府立中丹支援学校 京都府立城陽支援学校 京都府立舞鶴支援学校 京都府立八幡支援学校 京都市立西総合支援学校 京都府立井手やまぶき支援学校 京都教育大学附属特別支援学校 奈良県立高等養護学校 奈良県立ろう学校	四国地区大会 4校	香川県立香川東部支援学校 愛媛県立宇和特別支援学校 香川県立香川中部支援学校 愛媛県立今治特別支援学校
		九州地区大会 14校	福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 大分県立大分支援学校 大分県立さくらの杜高等支援学校 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校 鹿児島県立牧之原特別支援学校 宮崎県立日向ひまわり支援学校 沖縄県立中部農林高等支援学校 沖縄県立沖繩高等特別支援学校 沖縄県立やえせ高等支援学校 沖縄県立宮古特別支援学校 長崎県立希望が丘高等特別支援学校 長崎県立島原特別支援学校 長崎県立佐世保特別支援学校 長崎県立虹の原特別支援学校

## 集 計

複 合	開催地区	参加校数	
		2022第1回大会	2023第2回大会
330	西関東	7	8
333	東関東	7	10
331	北海道	15	19
332	東 北	3	7
334	北信越	4	7
	東 海	6	11
335	関 西	13	22
336	中 国	6	9
	四 国	3	4
337	九 州	6	14
	合 計	70	111

# 北海道地区

2023年7月28日 道立野幌総合運動公園総合体育館

# 東北地区

2023年9月2日~3日 ナイスアリーナ(由利本荘市)

### 1位リーグ 優勝:札幌市立みなみの杜高等支援学校

	A 1位	B 1位	C 1位	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
	中札内	みなみの杜	高等豊						
A 1位		△	△	0	2	0	2	0	2
中札内	0-0		1-1						
B 1位	△		○	1	1	0	4	1	1
みなみの杜	0-0		1-0						
C 1位	△	×							
高等豊	1-1	0-1		0	1	1	1	-1	3

### 4位リーグ

	A 4位	B 4位	C 4位	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
	小平	伊達	白樺						
A 4位		×	×	0	0	2	0	-5	12
小平		1-2	1-5						
B 4位	○		×	1	0	1	3	-1	11
伊達	2-1		0-2						
C 4位	○	○		2	0	0	6	6	10
白樺	5-1	2-0							

### 2位リーグ

	A 2位	B 2位	C 2位	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
	札高美	あいの里	新穂津						
A 2位		×	×	0	0	0	0	-7	6
札高美		0-4	0-3						
B 2位	○		○	2	0	0	6	5	4
あいの里	4-0		1-0						
C 2位	○	×		1	0	1	3	2	5
新穂津	3-0	0-1							

### 5位リーグ

	A 5位	B 5位	C 5位	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
	台南	釧路鶴野	紋別						
A 5位		×	×	0	0	2	0	-8	15
台南		0-3	0-5						
B 5位	○		×	1	0	1	3	2	14
釧路鶴野	3-0		1-2						
C 5位	○	○		2	0	0	6	6	13
紋別	5-0	2-1							

### 3位リーグ

	A 3位	B 3位	C 3位	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
	小樽	千歳	豊明						
A 3位		○	×	1	0	1	3	0	8
小樽		3-0	0-3						
B 3位	×		×	0	0	2	0	-6	9
千歳	0-3		1-4						
C 3位	○	○		2	0	0	6	6	7
豊明	3-0	4-1							

### 6位リーグ

	A 6位	B 6位	C 6位	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
	今金	函館	台北						
A 6位		×	×	0	0	2	0	-6	18
今金		0-3	0-3						
B 6位	○		○	2	0	0	6	5	16
函館	3-0		2-0						
C 6位	○	×		1	0	1	3	1	17
台北	3-0	0-2							



### 第2回全国特別支援学校フットサル大会東北大会組合せ

《リーグ戦》9月2日(土)

【Aグループ】	(A1) 栗田支援学校 (秋田県)	(A2) 女川高等学園 (宮城県)	(A3) みどり学園 (秋田県)	勝点	得点	失点	差	順位
(A1) 栗田支援学校 (秋田県)		○ 6-1	○ 3-0	6	9	1	8	1
(A2) 女川高等学園 (宮城県)	● 1-6		○ 5-0	3	6	6	0	2
(A3) みどり学園 (秋田県)	● 0-3	● 0-5		0	0	8	-8	3

【Bグループ】	(B1) 盛岡峰南・カナン学園合同 (岩手県)	(B2) ゆり支援学校 (秋田県)	(B3) 小松島支援学校 (宮城県)	勝点	得点	失点	差	順位
(B1) 盛岡峰南・カナン学園合同 (岩手県)		○ 3-0	● 0-5	3	3	5	-2	2
(B2) ゆり支援学校 (秋田県)	● 0-3		● 0-9	0	0	12	-12	3
(B3) 小松島支援学校 (宮城県)	○ 5-0	○ 9-0		6	14	0	14	1

試合時間		組合せ			
開会式	10:00				
第1試合	11:00	(A1) 栗田支援学校	6-1	(A2) 女川高等学園	
第2試合	11:50	(B1) 盛岡峰南・カナン学園合同	3-0	(B2) ゆり支援学校	
第3試合	12:40	(A2) 女川高等学園	5-0	(A3) みどり学園	
第4試合	13:30	(B2) ゆり支援学校	0-9	(B3) 小松島支援学校	
第5試合	14:20	(A3) みどり学園	0-3	(A1) 栗田支援学校	
第6試合	15:10	(B3) 小松島支援学校	5-0	(B1) 盛岡峰南・カナン学園合同	

《順位決定戦》9月3日(日)

5位決定戦	9:30	(A3位) みどり学園	1-5	(B3位) ゆり支援学校
3位決定戦	10:30	(A2位) 女川高等学園	1-4	(B2位) 盛岡峰南・カナン学園合同
決勝	11:30	(A1位) 栗田支援学校	1-3	(B1位) 小松島支援学校
閉会式	12:30			

優勝  
準優勝  
第3位

小松島支援学校
栗田支援学校
盛岡峰南・カナン学園合同

※優勝チームは、2023年11月4日に福岡県で行われる全国大会へ出場



# 東・西関東地区

2023年8月30日 東京都板橋小豆沢体育館

## 第2回全国特別支援学校フットサル大会 関東予選

西関東ブロック 南大沢 日野中央 羽村 青峰

東関東ブロック 水戸高等特別支援学校 結城特別支援学校 宇都宮青葉高等学園 流山高等学園

4チーム総当たりとする。(勝ち点：勝利3、引き分け1、負け0)  
 ※勝ち点が同一の場合、  
 ①直接対決結果②得失点差③得点数④抽選の優先順位で決定  
 →4チーム中、1チームが全国大会出場

No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
1	10:00-10:30	南大沢	日野中央	
2	10:30-11:00	羽村	青峰	
3	11:00-11:30	南大沢	羽村	
4	11:30-12:00	日野中央	青峰	
5	12:00-12:30	南大沢	青峰	
6	12:30-13:00	日野中央	羽村	

西関東	南大沢	日野中央	羽村	青峰	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差	順位
1	南大沢	x0-2	○4-0	△0-0	1	1	1	4	4	2	2	2
2	日野中央	○2-0	△0-0	△2-2	1	2	0	5	4	2	2	1
3	羽村	x0-4	△0-0	○2-1	1	1	1	4	2	5	-3	3
4	青峰	△0-0	△2-2	x1-2	0	2	1	2	3	3	0	4

No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
1	13:30-14:00	水戸	結城	
2	14:00-14:30	宇都宮	流山	
3	14:30-15:00	水戸	宇都宮	
4	15:00-15:30	結城	流山	
5	15:30-16:00	水戸	流山	
6	16:00-16:30	結城	宇都宮	

東関東	水戸	結城	宇都宮	流山	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差	順位
1	水戸	x1-2	x2-5	x0-1	0	0	3	0	3	8	-5	4
2	結城	○2-1	x1-2	△2-2	1	1	1	4	5	5	0	2
3	宇都宮	○5-2	○2-1	○3-0	3	0	0	9	10	3	7	1
4	流山	○1-0	△2-2	x0-3	1	1	1	4	3	5	-2	3

西関東：日野中央特別支援学校 / 東関東：宇都宮青葉高等学園 全国大会進出



# 北信越地区

2023年9月10日 石川県かほく市アクロス高松

## 第2回全国特別支援学校フットサル大会北信越大会 結果

全国大会予選の部

	富山	明和	いしかわ	小松	勝	分	敗	勝点	得失点差	順位
富山県立		○	○	○	3	0	0	9	35	1
富山高等支援学校A		10-2	11-0	16-0						
石川県立	●		○	○	2	0	1	6	3	2
明和特別支援学校	2-10		3-1	10-1						
いしかわ県立	●	●		○	1	0	2	3	-6	3
いしかわ特別支援学校	0-11	1-3		8-1						
石川県立	●	●	●		0	0	3	0	-32	4
小松特別支援学校	0-16	1-10	1-8							

優勝 富山県立富山高等支援学校A  
 準優勝 石川県立明和特別支援学校  
 3位 いしかわ県立いしかわ特別支援学校

交流戦の部

	富山	高岡	江南・川岸	アグラード	勝	分	敗	勝点	得失点差
富山県立		●	●	●	0	0	3	0	-5
富山高等支援学校B		0-1	1-2	2-5					
富山県立	○		○	○	3	0	0	9	6
高岡高等支援学校	1-0		4-1	4-2					
新潟県立江南高等特別支援学校・江南高等特別支援学校川岸分校	○	●		●	1	0	2	3	-3
FC.TONアグラード (オープン参加)	○	●	○		2	0	1	6	2
	5-2	2-4	2-1						





# 東海地区

2023年8月2日 ゼットフットサルスポーツ名古屋駅前

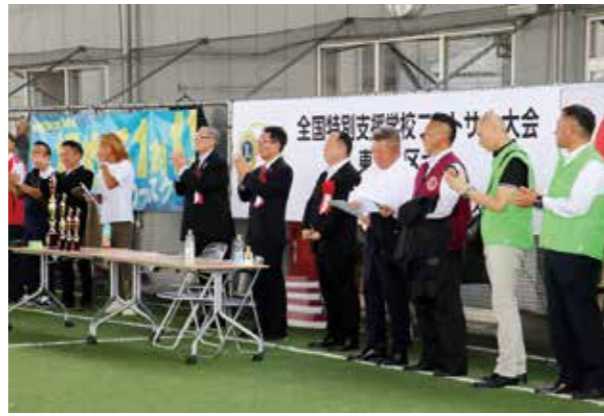
## 第2回全国特別支援学校フットサル大会 東海地区大会

Aグループ	大府もものき特別支援学校	特別支援学校伊賀つばき学園	海津特別支援学校	岐阜本巣特別支援学校	藤枝特別支援学校焼津分校	西濃高等特別支援学校	得点	失点	得失差	勝ち点	順位
大府もものき特別支援学校		× 1-4	× 1-2	△ 0-0	× 0-1	× 0-1	2	8	-6	1	6
特別支援学校伊賀つばき学園	○ 4-1		○ 5-0	○ 4-0	△ 2-2	× 0-1	15	4	11	10	2
海津特別支援学校	○ 2-1	× 0-5		× 0-1	× 0-6	× 0-5	2	18	-16	3	5
岐阜本巣特別支援学校	△ 0-0	× 0-4	○ 1-0		× 1-3	× 0-2	2	9	-7	4	4
藤枝特別支援学校焼津分校	○ 1-0	△ 2-2	○ 6-0	○ 3-1		× 1-2	13	5	8	10	3
西濃高等特別支援学校	○ 1-0	○ 1-0	○ 5-0	○ 2-0	○ 2-1		11	1	10	15	1

Bグループ	春日井高等特別支援学校	静岡浜松特別支援学校	岐阜清流高等特別支援学校	名古屋雙学校	可茂特別支援学校	得点	失点	得失差	勝ち点	順位
春日井高等特別支援学校		○ 4-1	× 0-1	× 1-7	× 0-3	5	12	-7	3	4
静岡浜松特別支援学校	× 1-4		× 0-9	× 0-12	× 0-5	1	30	-29	0	5
岐阜清流高等特別支援学校	○ 1-0	○ 9-0		△ 0-0	△ 0-0	10	0	10	8	2
名古屋雙学校	○ 7-1	○ 12-0	△ 0-0		○ 3-0	22	1	21	10	1
可茂特別支援学校	○ 3-0	○ 5-0	△ 0-0	× 0-3		8	3	5	7	3

A1位 西濃高等特別支援学校  
 決勝戦 0-1  
 B1位 名古屋雙学校  
 A2位 特別支援学校伊賀つばき学園  
 3位決定戦 4-0  
 B2位 岐阜清流高等特別支援学校  
 優勝 西濃高等特別支援学校  
 準優勝 名古屋雙学校  
 3位 特別支援学校伊賀つばき学園



# 関西地区

2023年8月4日 大阪府堺市立大浜体育館

## 第2回一般財団法人日本ライオンズ主催全国特別支援学校フットサル大会 関西大会 大会結果

予選リーグ (ランニングタイム 第1ピリオド10分、第2ピリオド10分、ハーフタイム5分)

Aブロック

	なにわ	東はりま	八幡
なにわ		7-0	8-2
東はりま	0-7		2-3
八幡	2-8	3-2	

Bブロック

	たまたがわ	奈良ろう	いなみ野
たまたがわ		0-0	0-1
奈良ろう	0-0		3-1
いなみ野	1-0	1-3	

Cブロック

	奈良高等	兵庫高等	中丹
奈良高等		0-0	10-0
兵庫高等	0-0		8-0
中丹	0-10	0-8	

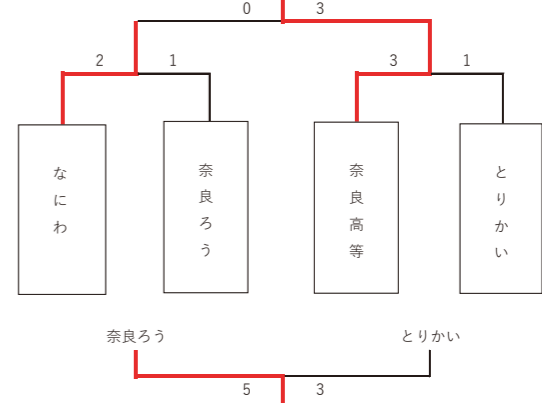
Dブロック

	とりかい	北はりま	城陽
とりかい		6-1	7-2
北はりま	1-6		0-3
城陽	2-7	3-0	

予選リーグ

	Aコート	Bコート	時間
第1試合	①	②	9:45-10:10
第2試合	③	④	10:15-10:40
開会式			10:50-11:05
第3試合	⑤	⑥	11:15-11:40
第4試合	⑦	⑧	11:45-12:10
第5試合	⑨	⑩	12:15-12:40
第6試合	⑪	⑫	12:45-13:10
第7試合	東はりまVSたまたがわ	中丹VS北はりま	13:25-13:50
第8試合	0-5	2-4	
第9試合	なにわVS奈良ろう	奈良高等VSとりかい	14:00-14:40
第10試合	2-1	3-1	
第11試合	八幡VSいなみ野	兵庫高等VS城陽	14:45-15:10
第12試合	0-2	3-0	
第13試合	なにわVS奈良高等	奈良ろうVSとりかい	15:30-16:10
第14試合	0-3	5-3	

決勝トーナメント (ランニングタイム 第1ピリオド15分、第2ピリオド15分、ハーフタイム10分)



閉会式 16:30



# 中国・四国地区

2023年8月27日 環太平洋大学第4体育館

中国地区											
A組	島根県立松江養護学校 川津校舎	岡山南支援学校	島根県立松江養護学校 安来分校	得点	失点	得失差	勝点	順位			
島根県立松江養護学校 川津校舎		4 ○ 0	8 ○ 1	12	1	11	6	1			
岡山南支援学校	0 × 4		1 △ 1	1	5	-4	1	2			
島根県立松江養護学校 安来分校	1 × 8	1 △ 1		2	9	-7	1	3			

本戦

前半8分 ハーフタイム4分 後半8分

前半6分 ハーフタイム3分 後半6分

B組											
	岡山県立倉敷琴浦高等学校	島根県立益田養護学校	山口県立宇部総合支援学校	得点	失点	得失差	勝点	順位			
岡山県立倉敷琴浦高等学校		2 × 3	0 × 1	2	4	-2	0	3			
島根県立益田養護学校	3 ○ 2		2 ○ 0	5	2	3	6	1			
山口県立宇部総合支援学校	1 ○ 0	0 × 2		1	2	-1	3	2			

C組											
	広島県立黒瀬特別支援学校	島根県立出雲養護学校	島根県立松江養護学校 乃木校舎	得点	失点	得失差	勝点	順位			
広島県立黒瀬特別支援学校		0 × 2	0 × 4	0	6	-6	0	3			
島根県立出雲養護学校	2 ○ 0		0 × 6	2	6	-4	3	2			
島根県立松江養護学校 乃木校舎	4 ○ 0	6 ○ 0		10	0	10	6	1			

四国地区											
	香川県立香川中部支援学校	香川県立香川東部支援学校	愛媛県立今治特別支援学校	愛媛県立宇和特別支援学校	得点	失点	得失差	勝点	順位		
香川県立香川中部支援学校		0 × 9	0 × 5	0 × 9	0	23	-23	0	4		
香川県立香川東部支援学校	9 ○ 0		2 ○ 0	2 ○ 1	13	1	12	9	1		
愛媛県立今治特別支援学校	5 ○ 0	0 × 2		4 ○ 1	9	3	6	6	2		
愛媛県立宇和特別支援学校	9 ○ 0	1 × 2	1 × 4		11	6	5	3	3		

開始時刻	Aコート			審判	Bコート			審判
10:45~11:05	香川県立香川中部支援学校	0 VS 9	香川県立香川東部支援学校	入柿、吉川	愛媛県立今治特別支援学校	4 VS 1	愛媛県立宇和特別支援学校	塚越、岩崎
11:15~11:35	島根県立松江養護学校 川津校舎	4 VS 0	岡山南支援学校	神原、岩井	岡山県立倉敷琴浦高等学校	2 VS 3	島根県立益田養護学校	横山、平川
11:45~12:05	広島県立黒瀬特別支援学校	0 VS 2	島根県立出雲養護学校	横山、大野	香川県立香川東部支援学校	2 VS 0	愛媛県立今治特別支援学校	田淵、岩崎
12:15~12:35	香川県立香川中部支援学校	0 VS 9	愛媛県立宇和特別支援学校	塚越、宇田	島根県立松江養護学校 川津校舎	8 VS 1	島根県立松江養護学校 安来分校	入柿、大野
12:45~13:05	岡山県立倉敷琴浦高等学校	0 VS 1	山口県立宇部総合支援学校	田淵、平川	広島県立黒瀬特別支援学校	0 VS 4	島根県立松江養護学校 乃木校舎	岩井、神原
13:15~13:35	香川県立香川中部支援学校	0 VS 5	愛媛県立今治特別支援学校	入柿、神原	香川県立香川東部支援学校	2 VS 1	愛媛県立宇和特別支援学校	宇田、岩崎
13:45~14:05	岡山南支援学校	1 VS 1	島根県立松江養護学校 安来分校	横山、吉川	島根県立益田養護学校	2 VS 0	山口県立宇部総合支援学校	平川、入柿
14:15~14:35	島根県立出雲養護学校	0 VS 6	島根県立松江養護学校 乃木校舎	塚越、大野				

フレンドリーマッチ	四国地区予選3位	中国地区予選5位	中国地区予選7位	中国地区予選8位				
14:45~15:00	愛媛県立宇和特別支援学校	4 VS 1	島根県立出雲養護学校	田淵、岩井	島根県立松江養護学校 安来分校	0 VS 5	岡山県立倉敷琴浦高等学校	岩崎、神原

中国地区・準決勝								
15:10~15:30	島根県立松江養護学校 川津校舎	2 VS 1	島根県立益田養護学校	岩崎、平川	島根県立松江養護学校 乃木校舎	5 VS 0	山口県立宇部総合支援学校	横山、岩井

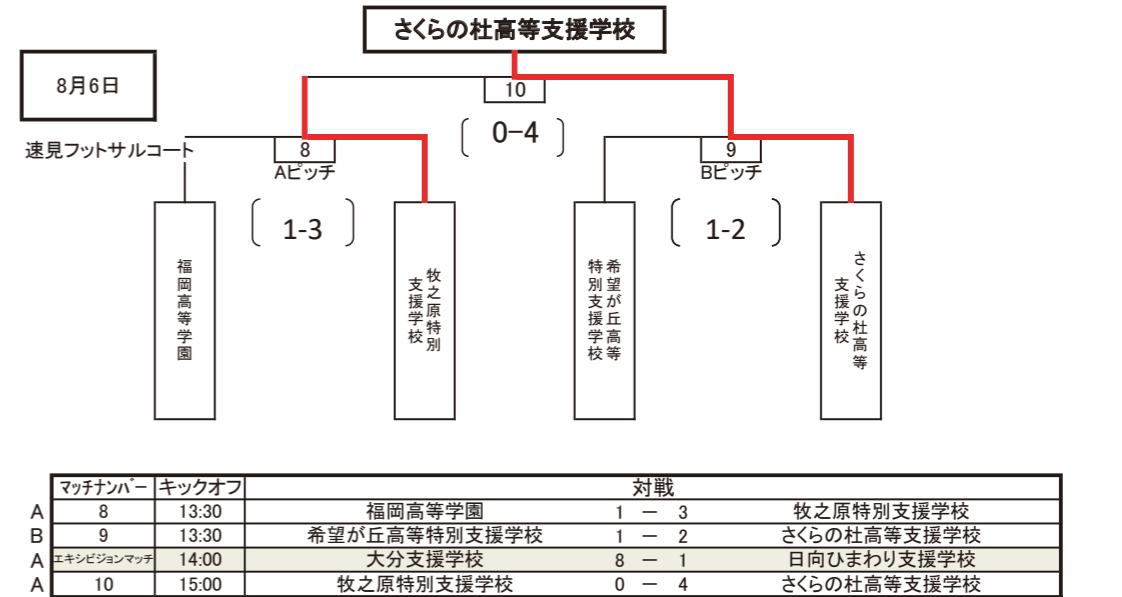
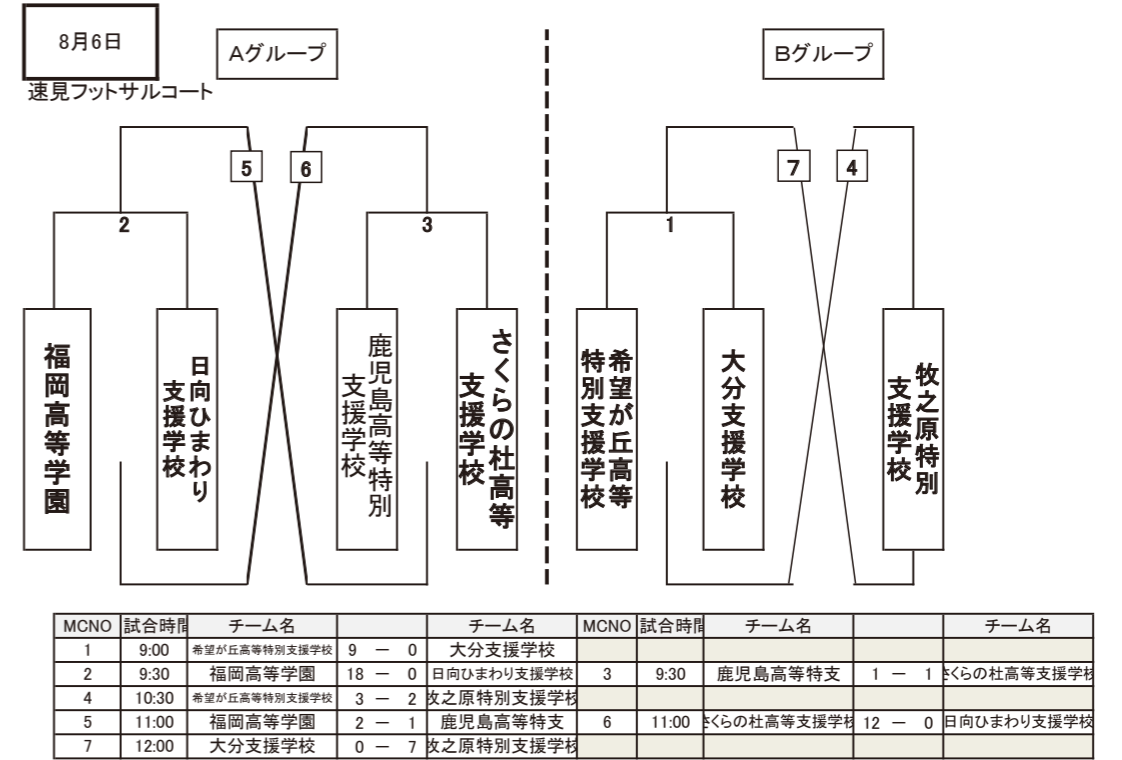
フレンドリーマッチ	四国地区予選4位	中国地区予選6位	中国地区予選9位	中国地区予選7位と8位の勝者				
15:40~15:55	香川県立香川中部支援学校	0 VS 4	岡山県立岡山南支援学校	神原、入柿	広島県立黒瀬特別支援学校	1 VS 0	岡山県立倉敷琴浦高等学校	宇田、吉川

決勝	中国地区				四国地区			
16:10~16:30	島根県立松江養護学校 川津校舎	2 VS 7	島根県立松江養護学校 乃木校舎	塚越、川島	香川県立香川東部支援学校	3 VS 1	愛媛県立今治特別支援学校	角、大野

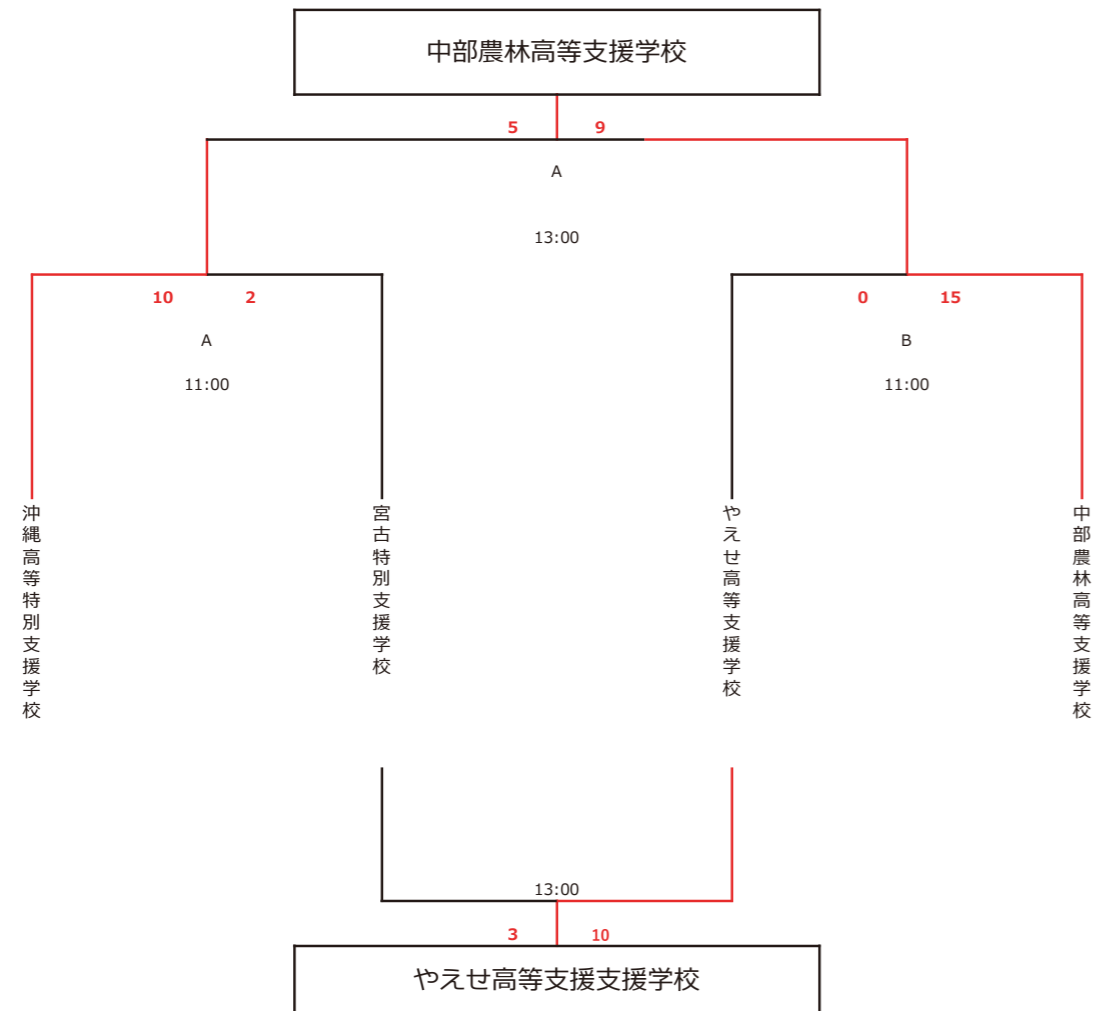


# 九州地区

2023年8月6日 速見フットサルコート



kick off	MNo	Aピッチ (入口側)		Bピッチ (奥側)	
11:00	①	沖縄高等特別支援学校	10-2	宮古特別支援学校	2
13:00	③ 決勝戦	沖縄高等特別支援学校	5-9	中部農林高等支援学校	4
				3位決定戦	宮古特別支援学校
					0-15
					3-10



## 第3回全国特別支援学校 フットサル大会の開催の告知

- 主催 公益財団法人日本ライオンズ
- 後援予定 スポーツ庁 愛知県 名古屋市 全国特別支援学校長会
- 各地区大会の日程  
2024年(令和6年)6月~9月までの間で、全国12地区において地区大会を開催する。
- 全国大会の日程
  - 開催期日 令和6年11月2日(土)
  - 会場 中村スポーツセンター(愛知県名古屋市中村区中村町字待屋43-1)
  - 日程 令和6年11月1日(金) 午後3時00分 開会式・抽選会  
令和6年11月2日(土) 午前9時30分 全国大会  
午後4時00分 表彰式・閉会式



ライオンズクラブ国際協会337-A地区(糸島ライオンズクラブ)池上信第2回実行委員長から引き継ぎを受けるライオンズクラブ国際協会334-A地区(一宮ライオンズクラブ)次期実行委員会 野村政司委員長代理

**第3回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会**  
**開催期日及び会場、連絡先一覧** (2024.1.31現在)

区分	開催期日	開催会場	開催主管組織及び連絡先等
北海道	7月27日(土)	道立野幌総合運動公園 総合体育館	公益財団法人明日佳 鈴木重男 090-7519-9503 suzuki@kyoshinomichi.jp
東北	7月6日(土)or 7月13日(土)	カメイアリーナ仙台 (仙台市体育館)	一般社団法人東北サッカー協会 天本清隆 090-8259-9223 r-tohoku@jfa.or.jp 東北福祉大学 大西孝志 080-4895-1066 t-onishi@tfu-mail.tfu.ac.jp
東関東 西関東	8月29日(木)	東京都北区滝野川体育館	関東知的障がい者サッカー連盟 木村純一 080-5064-1648 vamora6@yahoo.co.jp
北信越	9月8日(日)	ジョイアクロス「アクロス館」 (アクロス高松)	一般社団法人北信越サッカー協会 谷内浩仁 090-2123-6997 r-hokusinetu@jfa.or.jp
東海	7月30日(火)	一宮中央プラザ体育館	ライオンズクラブ国際協会334A実行委員会 大山恭範 090-33087888 bu-ton29@pearl.ocn.ne.jp
東関西 西関西	7月29日(月)	大浜だいしんアリーナ (堺市立大浜体育館)	関西知的障がい者サッカー連盟 芥川豊和 090-8532-1088 T-AkutagawaT@medu.pref.osaka.jp
中国 四国	8月25日(日)	IPU・環太平洋大学 第4体育館	環太平洋大学サッカー部 桂 秀樹 080-2418-9071 h.katsura@ipu-japan.ac.jp
北九州 南九州	8月24日(土) 8月25日(日)	速水フットサルコートA/B	一般社団法人沖縄県障がい者サッカー連盟 金城 充 090-8291-0556 mitsurugekidan@yahoo.co.jp 大分県立大分支援学校 清末直樹 090-9496-2667 kiyosue-naoki@oen.ed.jp

**第2回全国特別支援学校フットサル大会を終えて**

大会副会長 **小野寺眞悟**

公益財団法人日本ライオンズ副理事長

昨年度に引き続き地区予選から本大会まで円滑に進行され、より一層の盛会裏に終えられたことを誠に光栄に思います。全国10地区のパートナーの皆さまが大会の理解啓発を進められたおかげで、本年度出場校が昨年の70校から111校に増えました。また、全国の代表校が終結した福岡大会では実行委員会の不断の努力と繊細でホスピタリティあふれる運営のおかげで、開会式から本戦、閉会式まで温かみあふれる大会となりました。

本大会は勝ち負けも大事ですが、普段は外部との交流が少ない特別支援学校の生徒の皆さんが、スポーツを通じて一人の人間として成長する、『自立』『リスペクト』を学ぶ場として創設致しました。開閉会式などでの凜(りん)とした姿、チームワークや仲間への声かけ、勝っても負けても号泣する姿や最後まであきらめず懸命にプレーする姿を見て、昨年に続き感動をいただき、生徒の皆さんの将来展望に明るさを感じた次第です。

ひとつのエピソードをご紹介します。大会翌日、各代表校の帰省を、開催県チームである福岡高等学園の生徒、スタッフの皆さんが自主的にお見送りをしてくれたのです。聞けば、スタッフの方が提案し生徒さんも賛成、事務局も快く受け入れました。さらに、福岡高等学園の生徒の皆さんは名古屋聾学校様のためにインターネットなどで手話を調べてお見送りをしてくれました。まさに、大会コンセプトを实践した、本大会の意義が浸透しつつあることを確信させる感動的なシーンでした。

日本ライオンズと致しましては、少子化や貧困など困難な状況におかれている子ども達が、障がいのあるなしに関係なく、等しく『夢』『希望』を持ちながら健全に自らの道を歩んでいけるよう支援と活動を続けて参りますので、皆さまのご協力、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



お見送りをする福岡高等学園の皆さん



帰省バスをお見送りする福岡高等学園の皆さん

公益財団法人 日本ライオンズ 寄付報告書 Ver.01

ご記入日 振込日 (銀行明細の取引年月日)	年 月 日	年 月 日
振込金額	円	
地区/クラブ名	地区	ライオンズクラブ
寄付者 情報	メンバー： 会員番号 一般： ご紹介者名	
	法人・個人 名	
	ご連絡先	電話(携帯) - -
	E-MAIL	@
所属クラブ 連絡先	電話	- -
	FAX	- -
	E-mail	@
寄付情報に関する問い合わせ担当者		
指定寄付	希望しない・希望する (○で囲んでください)	
	ご希望される指定寄付 (以下、○で囲んでください) 寺子屋事業・フットサル事業	
	その他：	
領収書 送付先	送付先宛名：	
	送付先 〒	都道府県 市区町村
	ご住所：	
	領収書宛名：	
備考		
振込先	銀行名/支店名 三井住友銀行 東京公務部 口座 普通預金 0178781 口座名 公益財団法人日本ライオンズ【ザイ）ニホンライオンズ】	
報告用紙 送付先	公益財団法人日本ライオンズ E-Mail : office@lion-zaidan.or.jp TEL/FAX:03-6262-6108	

発行日 2024年1月31日  
 発行者 公益財団法人日本ライオンズ  
 監修 小野寺眞悟  
 編集 木村健太郎  
 編集者 第2回全国特別支援学校フットサル大会編纂委員会  
 印刷 中西印刷株式会社

